



CSR REPORT 2022

1. 社長メッセージ

CSRサイトレポートを発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

昭和電工HD山形株式会社は、昭和電工グループのハードディスク事業の重要生産拠点として、開業以来「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」を事業継続の大前提と掲げております。

ハードディスクは、パソコンやデータセンター向けハードディスクドライブ(HDD)を始めとして、カーナビゲーション、外付けHDD、HDDレコーダー、ゲーム機、VR、監視カメラ等に広く使用されている大容量記録媒体であり、昭和電工グループのハードディスク事業は、世界の20%を超える市場シェアを占めています。

近年では、IoTの伸張に伴うビッグデータの活用、クラウド・モバイルの普及によるデータセンターの大容量化が進み、データセンターで利用されるニアラインHDD(NL-HDD)の需要は年々拡大しています。

当社は、NL-HDD向け大容量ハードディスクの技術革新をさらに推し進めており、次世代記録方式である※MAMRに対応したハードディスクメディアの供給を本格的に開始いたしました。今後も拡大進化を続ける高度デジタル化社会にいつそう貢献してまいります。

新型コロナウイルス感染症による社会生活への不安が広がる中、今後も良き企業市民としてCSR活動を実践し、安全・安心・快適で環境負荷の少ない持続可能な低炭素社会の実現に向け、事業を力強く推進いたします。

※MAMR : Microwave Assisted Magnetic Recording (マイクロ波アシスト磁気記録)

代表取締役社長 石川 二郎



2. 事業所長メッセージ

昭和電工HD山形株式会社は、昭和電工グループのHD事業の生産拠点のひとつとして2009年7月に発足し、その歴史を刻み続けています。開業から現在に至るまで、「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」を継続できておりますのは、ひとえにお客様、サプライヤー様、協力企業様、社員並びに関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

ハードディスクは、IoTの伸張を支えるキーデバイスの一つであるハードディスクドライブに必要なコンポーネントです。高記録密度化の加速、更なる信頼性の向上、コストダウン強化を図り、「Best-In-Class(BIC)」製品の安定供給を通して、高度情報化社会の進展に貢献していく所存です。

また、昭和電工グループHD事業において、当社の重要な役割である基板マザー工場機能と、ニアラインメディアの1st量産および他拠点展開にスピード感を持ってあたるとともに、今後とも、『事業継続のベースは安全・安定操業、環境トラブルゼロにある』ということ念頭に、安全で健康的な職場を築いてまいります。

本レポートをご覧いただき、わたくしたちの取り組みへの忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

取締役事業所長 工藤 正典



3. 会社概要

ショウワデンコウエイチディヤマガタ

◆ 昭和電工HD山形株式会社 ◆

〈昭和電工株式会社の100%子会社〉



- 操業開始 2009年(平成21年)7月1日
- 資本金 450百万円(2021年12月31日現在)
- 従業員 社員:367人、協力会社:404人(2021年12月31日現在)
- 所在地 本社:山形県東根市大字東根甲5400番地2
基板工場:栃木県小山市犬塚1丁目480番地
- 事業内容 磁気ディスク装置用アルミニウム基板及び記録メディアの開発、製造、販売



ハードディスクメディア



【 昭和電工株式会社 】

- 設立 1939年(昭和14年)6月
- 資本金 182,146百万円(2021年12月31日現在)
- 従業員 グループ連結:26,054人、単独:3,298人(出向者を除く)
(2021年12月31日現在)
- 本社所在地 東京都港区芝大門1丁目13番9号
- 売上高 グループ連結:1兆4,196億円(2021年12月期)
- 事業内容 半導体・電子材料、モビリティ、イノベーション材料、ケミカル、その他

• CSRLレポートの報告対象範囲

昭和電工HD山形(株) 本社・基板工場を対象としています。報告対象期間は、2021年4月~2022年3月の情報です。環境データの一部は、2021年1月~12月のものです。

2022年 SHDY事業所方針

前進 変化を取り込み新たなSHDYへ

1. アルミ基板増産の実行
2. No.1 品質・No.1 生産性の堅持
3. 新規プログラムの垂直立上げ
4. 事業所基盤の強化
5. 安全安定操業とコンプライアンスの徹底

以 上

5. マネジメントシステム

■品質マネジメントシステムの維持強化 (業務方針、方向の明確化と進捗管理)

1. 品質方針

- ・方針展開は以下の通りトップダウンにより周知徹底を図っています。
昭和電工(株)デバイスソリューション事業部⇒事業所方針
⇒各部分方針⇒全従業員

2. 業務遂行の重要ポイント

- ・各部における重要な業務プロセスを明確にします。
- ・更に、その業務と各部とのかかわりも明確にしています。
- ・実績検討会や生産会議の場で、トップへ報告を行います。

3. 国際規格ISO9001の取得

- ・2010年1月に品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しました。また2016年1月には小山基板工場を統合し、基板とメディアの開発、製造、販売へ認証を拡大しております。
 - ・昨年は顧客満足度や成果実績も考慮される3年に1度の更新審査があり、サーベイランスも高評価を得て、継続認証されております。
- 認証番号 : QC09J0076
 登録日 : 2010年1月6日
 認証機関 : 株式会社日本環境認証機構 (JACO)



昭和電工HD山形株式会社
山形県東根市大字東根甲5400番地2

登録証

登録番号:QC09J0076
ISO 9001:2015・JIS Q 9001:2015

磁気ディスク装置用アルミニウム基板及び
記録メディアの開発、製造、販売

当機関は、上記組織が、当該マネジメントシステム
要求事項に適合していることを証します。

登録日 : 2010年1月6日 株式会社 日本環境認証機構
更新日 : 2022年1月6日 東京港区赤坂2-2-1
発行日 : 2023年12月22日 代表取締役
有効期限 : 2025年1月5日 小野寺 浩幸

本証は登録証の一部であり、複製または改ざりしてはなりません。

■顧客満足度の向上を目指した活動

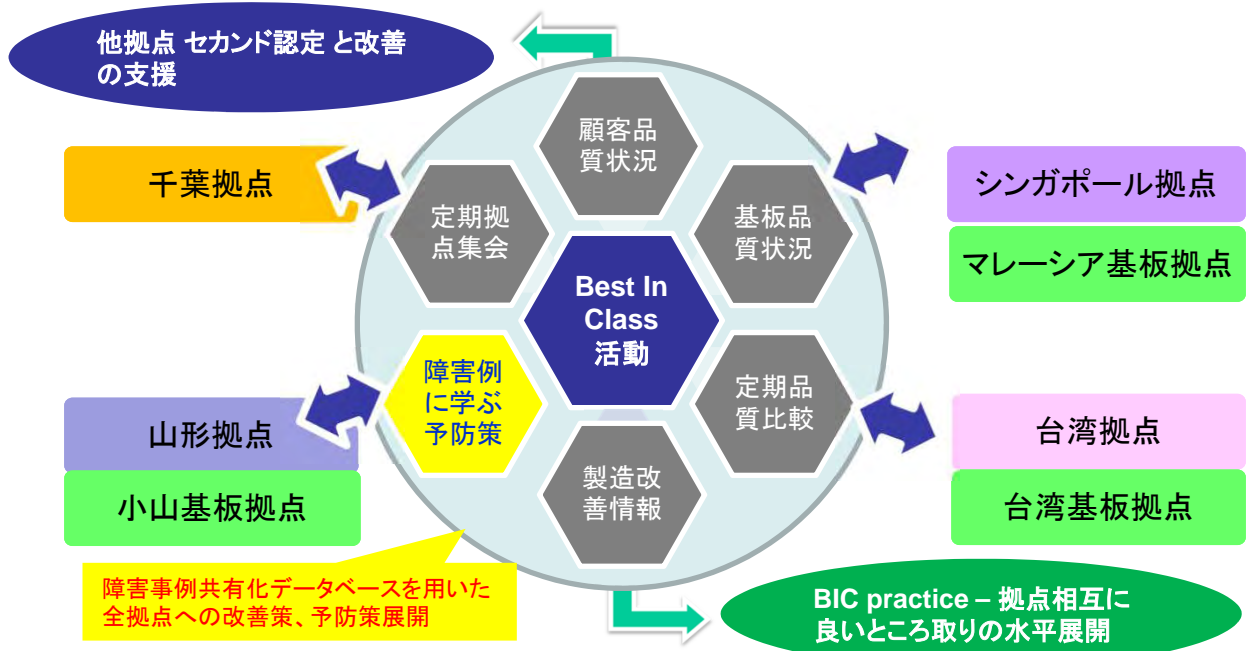
1. お客様とよりよい関係の構築

- ・各場面(開発/量産/出荷先)で顧客との定期打合せにより、品質状況の共有と要求事項への対応をしています。

| 打合せ名 | 内容 | 参加組織 |
|---------|--|---|
| 開発コラボ会議 | ・新機種設計仕様と目標達成度の確認 ・市場品質状況、市場要求事項の確認 | 顧客設計部門 当社開発部門 |
| 量産コラボ会議 | ・量産状況確認と品質課題への対応 ・継続的改善活動 | 顧客SQE部門(国内/海外) 当社品証部門(各製造拠点) 当社プロセス改善部門 |

2. お客様の満足とさらなる安心をめざす安定品質の提供

- ・ニアライン機種及び基板のマザー工場として、初回認定を受けた後、他拠点のセカンド認定と量産時の改善の支援を行っています。
- ・全製造拠点間で媒体に関する顧客品質状況や主な基板供給拠点間での製造品質・改善情報の共有により、品質格差の低減と顧客品質問題に対する先取り対策を水平展開しています。この活動は昭和電工グループHD 事業における全体活動として行われており、Best in Class活動と呼ばれています。



労働安全衛生・環境方針

高度情報化社会を支えるキーデバイスである磁気ディスク装置に不可欠なコンポーネントとしての高容量・高性能・高信頼性の基板を含む記録メディアの開発・製造、販売活動を通じて、労働安全衛生及び地球環境に配慮した企業活動を実践することにより、企業としての社会的責任を果たします。

- ・労働安全衛生マネジメントシステム及び環境マネジメントシステムの継続的な改善を行うと共に、労働災害防止および環境保護に努めます。
- ・労働安全衛生と環境に関連する法令、規制と当社が同意したその他の要求事項を順守すると共に、自主的な基準を設定し順守します。
- ・安全で快適な職場環境のもと、高品質で環境と社会に貢献する製品及びサービスを提供することを目的に以下の重点テーマに基づく実施計画を設定して取り組みます。
また、実施計画を定期的に見直し、労働安全衛生と環境のパフォーマンスを継続的に改善します。
 - (1) リスクアセスメントの活用・マネジメントシステムの深化により災害ゼロを目指す。
 - (2) 疾病予防と健康管理を推進し、こころと身体の健康づくりを目指す。
 - (3) 事業活動を通じてサステイナブルな社会の実現に貢献する。
- ・事業継続のベースは「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」にあることを認識し、教育訓練や啓発活動を通じて、全従業員の労働安全衛生の意識を向上させ、一人ひとりが関連法令を順守し、地球環境に配慮した行動を実践できるよう取り組みます。
- ・地域社会、公的機関及び利害関係者との良好な関係を図るため、積極的な情報開示と対話に取り組みます。

この方針は当社で働く又は当社のために働くすべての人に周知すると共に、社外からの要求に応じて一般の人にも開示します。

2022年 7月 1日
昭和電工HD山形株式会社

事業所長 工藤正典

労働安全衛生・環境マネジメントシステム

昭和電工HD山形㈱は2009年11月に「環境マネジメントシステム」の認証を取得しました。「労働安全衛生マネジメントシステム」は2021年1月にOHSAS18001よりISO45001の認証への移行が完了しました。二つのマネジメントシステムを統合した運営を行い、効率的な活動を展開しています。

＜環境マネジメントシステム＞

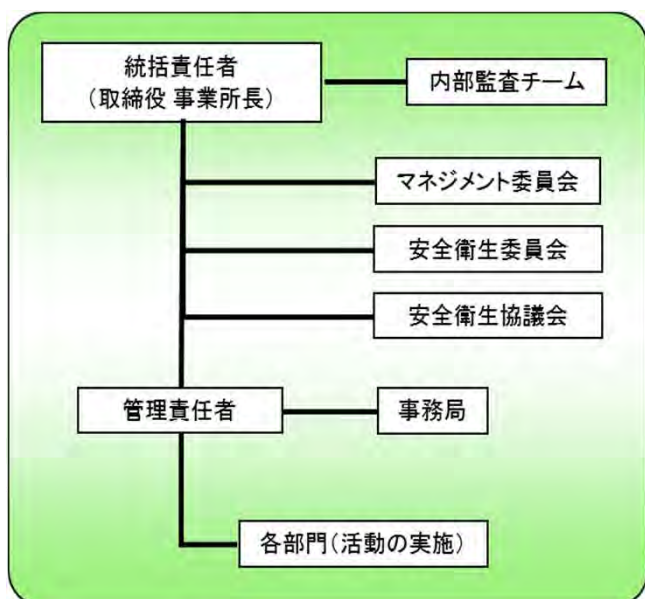
- ・認証規格：ISO14001:2015
(JIS Q 14001:2015)
- ・登録番号：12ER・862
- ・初回登録日：2009年11月25日
- ・認証機関：高圧ガス保安協会 ISO審査センター
(KHK-ISO Center)

＜労働安全衛生マネジメントシステム＞

- ・認証規格：ISO45001:2018
(JIS Q 45001:2018)
- ・登録番号：21HR・023
- ・初回登録日：2021年1月29日
- ・認証機関：高圧ガス保安協会 ISO審査センター
(KHK-ISO Center)



労働安全衛生・環境マネジメント組織



環境活動に関しては、各部門において環境負荷低減を推進しています。

労働安全衛生活動に関しては、職場の各部門内の小グループにて危険リスクを抽出し、危険源の排除活動を行い、安全で快適な職場環境を実現しています。

これらの活動はマネジメント委員会にて審議され、活動のスパイラルアップを行う体制としています。

定期的実施される内部監査や外部審査により、労働安全衛生・環境活動の運用状況や継続的改善の状況についてチェックしています。

6. 環境負荷の概要

当社は製品を提供するために、さまざまな原材料を調達し、燃料・電力などのエネルギーや水資源を使用しています。また、生産活動に伴って発生する環境負荷の低減活動も積極的に行っています。



〔算出対象期間:2021年4月1日~2022年3月31日〕

※ゼロエミッション達成中: 定義は埋立処分量が廃棄物発生量の0.5%以下であること。

7. 地球温暖化対策

エネルギー起源CO₂の排出量削減

以下の活動を実施し、エネルギー起源のCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

①製造設備の効率化

記録メディア製造工程の歩留まり改善やライン稼働率の向上を図ることにより、エネルギー当たりの生産量増加に継続的に取り組んでいます。

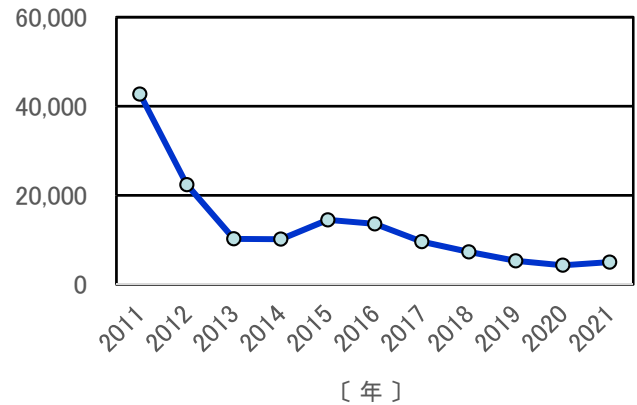
| | 目標 | 実績 |
|---------------------|--------------------------|--------------------------|
| 使用量(原油換算) | 10,591 kℓ | 10,019 kℓ |
| CO ₂ 排出量 | 24,724 t-CO ₂ | 20,097 t-CO ₂ |

(注: 本社のみの値)

CO₂以外の温室効果ガス削減

記録メディア製造工程で使用する溶剤(HFC:代替フロン)の1つで温室効果ガスの蒸散量を低減するために、潤滑剤塗布装置内の液温及び製造エリアの室温下げ調整等に取り組んでいます。それにより溶剤の蒸散量を抑制しました。

[t-CO₂] 大気排出量の推移



8. 廃棄物対策

廃棄物削減

記録メディア・基板製造工程の排水を処理することで汚泥が発生します。汚泥の削減のため、排水処理方法の検討を行い廃棄物発生量の抑制に取り組んでいます。

また、廃プラスチック類の分別を継続的に行うなど、廃棄物の有価物化に積極的に取り組み、廃棄物発生量の削減に努めています。

廃棄物発生量が目標未達であったのは、アルミ基板増産により、基板製造工程からの排出量が増加したためです。

| | 目標 (2020年実績) | 実績 (2021年) |
|------------|-----------------|---------------|
| 総発生量 | 745 t | 828 t |
| 廃棄物発生量 | 592 t | 645 t |
| 有価物量 | 150 t | 180 t |
| 一般廃棄物(事業系) | 3 t | 3 t |

(注: 本社のみの値)

[7. 地球温暖化対策、8.廃棄物対策における活動期間は、2021年4月1日 ~ 2022年3月31日]

9. 環境に関わる法規制の順守状況

大気関係

当社は大気汚染防止法に関連する設備として、空調用のボイラー、吸収式冷凍機のばい煙発生施設を設置しています。

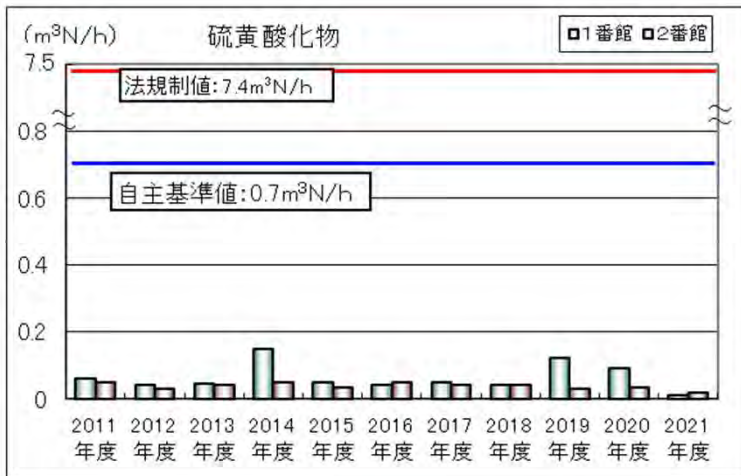
大気汚染防止法に基づく定期測定の結果、大気への環境負荷物質の排出量は法規制値を大幅に下回る低い水準で推移しています。

各機器では、最適な燃焼効率となるように適宜調整を行っています。また、冬期間は外気を活用したフリークーリングシステムを積極的に利用することで吸収式冷凍機運転停止による、ばい煙発生抑制に努めています。



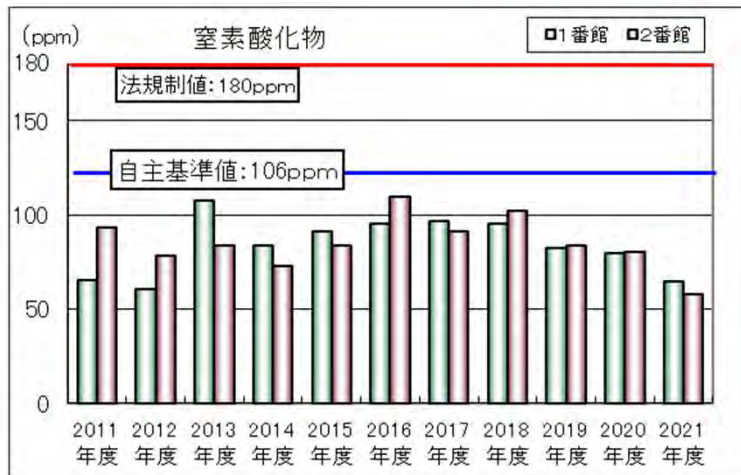
・ばいじん: ばい煙の一種で、すすや燃えかすの固体粒子状物質。

煙道のばい煙濃度計により、常時ばい煙の状態を監視しています。



・硫黄酸化物: 石油や石炭などの化石燃料を燃焼するときに排出される物質。ソックス(SOx)ともいう。

硫黄酸化物の濃度を抑制するために、燃料中の硫黄成分が少ないLSA重油を使用しています。
※LSA重油: Low Sulfur A重油



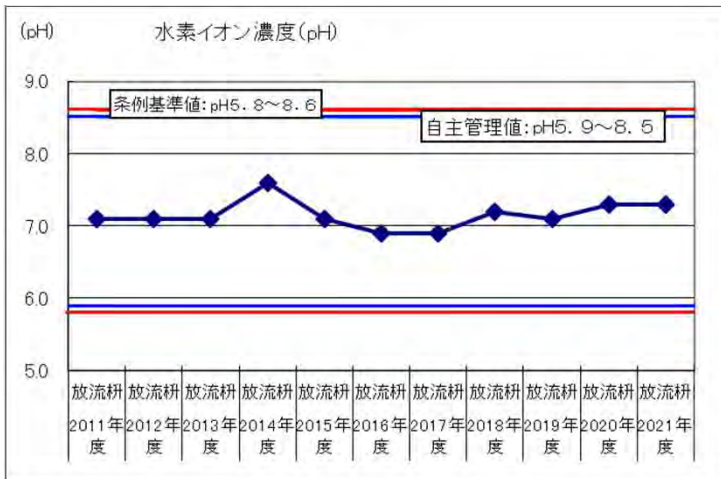
・窒素酸化物: 光化学オキシダントの原因物質で硫黄酸化物と同様に酸性雨の原因ともなっている物質。ノックス(NOx)ともいう。

燃焼温度を管理し窒素酸化物の濃度を適正に管理しています。

水質関係

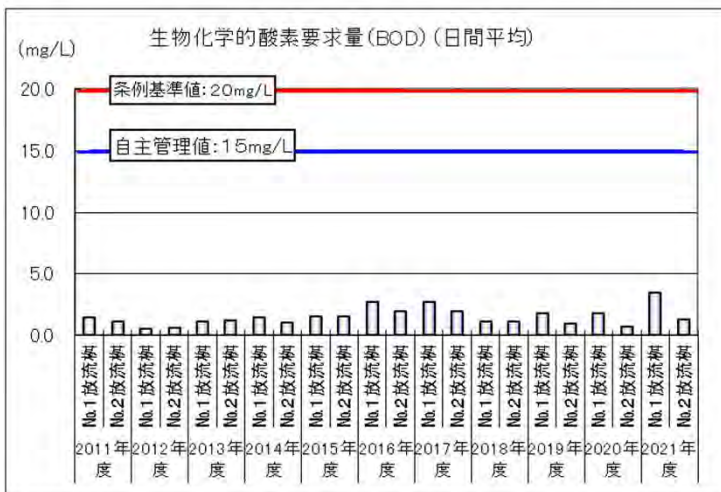
水質汚濁防止法の法規制値より厳しい山形県の条例基準値を順守すべく、更に厳しい自主基準値を設定し、排出水の水質を管理しています。また、水質汚濁防止法に基づく定期測定の結果、水質関係の各測定値は法令基準値を下回る低い水準で推移しています。

当社の工程からの排水は、全て社内の処理施設にて処理を行っています。処理した排水を工場敷地外に排出する際は、最終放流槽のpHセンサーにて常時監視を行い、水質基準に合わない水を流出させないようにしています。



・pH: 水溶液の酸性・アルカリ性の程度をあらわす単位。(中性はpH7.0)

各排水処理施設の最終段階で更にpH調整を行い放流しています。



・BOD: 水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のこと。河川の有機汚濁を測る代表的な指標。

流動接触槽による生物活性処理を行い、BODの低減をはかっています。また、製造のプロセス設計の段階から工程排水のBODを低減するようにしています。



・SS: 水中に浮遊している直径2mm以下の粒子状物質。懸濁物質とも言う。

排水処理工程にて、凝集沈殿、砂ろ過等により浮遊物質の除去を行っています。

10. 労働安全衛生

労働安全衛生活動

1. 活動方針

- ・労働安全衛生マネジメントシステムの継続的な改善による労働災害防止に努めます。
- ・労働安全衛生に関する法令、規制を順守すると共に、社内規程を順守します。
- ・従業員の健康保持・増進を図ります。

2. 年間重点実施事項

(1) 安全関係

- ・リスクアセスメントを活用した安全衛生活動の徹底
- ・職場巡視の定期実施及び指摘事項の改善

(2) 衛生関係

- ・健康診断結果に基づく事後措置、保健指導の実施
- ・ストレスチェック調査結果に基づく改善支援
- ・昭和電工グループ「健康保持・増進プラン2021」取り組みの推進

3. 労働災害の状況

- ・2021年度は、休業・不休業災害とも「ゼロ」でした。
- ・無災害労働時間(2022年3月現在 社員と協力企業の合計)

265万時間 (本社) **328万時間** (基板工場)

『ヒヤリハット提案』のシステム化について

2022年2月から、ヒヤリハット事例が起きた際の提案書作成及び提出を迅速に行うためのシステム化に取り組みました。入力フォームは、発生場所・作業区分・型別・原因といった項目を選択式にし、現場画像も取り込めるようにしました。システム化することで、従業員(交替勤務者含む)はいつでもヒヤリハット事例を提案出来るようになりました。また、社内では、どのようなヒヤリハットが多いかなどキーワード検索を利用することで情報共有を容易にしました。今後は、本システムでヒヤリハット事例データの分析を行うことで、労働災害防止に役立てるようにしていきます。



設備工事における事故ゼロに向けた安全教育体制の構築

場内における工事業者の労働災害を防止するために、新規入場者及び過去1年以内に入場時の安全教育を受講していない方を対象に、入場時安全教育を実施しています。

安全教育は過去に実災害が発生している脚立取り扱いに重点をおいた20分程度の内容で、教育終了後に理解度確認テストを実施し、合格者のみが工事に従事できるようにしています。

教育レベルを統一するために、安全教育ができる担当者の社内教育も実施し、登録された人のみが教育できるようにしています。



薬液漏洩緊急事態対応訓練の実施

2021年9月に、基板工場では昭和電工(株)小山事業所と合同で、薬品漏洩を想定した緊急事態訓練を実施しました。基板工場は小山事業所内に立地し、製造設備の排水は小山事業所内の排水処理施設を利用しています。そのため、環境事故の発生を予防し、環境への影響を最小限にとどめるためには、小山事業所との連携が重要です。毎年のこのような緊急事態を想定した訓練を実施していきます。



11. 心と身体の健康づくり

『健康だより』の定期発行

生活習慣病が深刻化するの、働き盛りである40歳以降ですが、その多くは自覚症状がないまま進行します。健康でイキイキと元気に働くためには、日頃のセルフケアが重要になります。健康管理室では病気の予防や健康増進のために必要な健康情報を提供し、健康意識を高めていただくことを目的に毎月1回「健康だより」を発行しています。

今後も健康づくりに有効で健康管理に役立つ、興味深い情報提供を行っていきます。



就業開始前の『朝のラジオ体操』一斉実施

当社では、2019年より日頃の運動不足の解消と運動習慣の定着化を目標に朝の就業開始前にラジオ体操を一斉に実施しています。ラジオ体操は、生活習慣病の予防、血液循環の改善、肩こりや腰痛の軽減等の効果があります。また、少しの時間の活用で気分がリフレッシュされるのでストレス解消にもつながり、精神的な効果も期待できます。

今後も従業員の健康意識を向上させるために、健康増進と生活習慣病の予防改善のために社員の健康づくりに取り組んでいきます。



『健康づくり・私のチャレンジ90』の取り組み

当社では2020年1月から「健康づくり・私の健康チャレンジ90」を実施しています。不健康な生活習慣は生活習慣病を引き起こす要因となります。健康意識向上と心身ともに健康で働くために、健康診断前3か月間を「健康意識を改善するための取り組み期間」と位置づけ、健康な生活習慣を体得し、健康づくりの意識定着につなげる活動を実施するものです。右に示す「健康づくり」『私のチャレンジ90宣言書』を用いて活動を実施しています。活動を実施した日には宣言書の桜の木の○(サクラ)を1つ塗り、90日すべて活動を実施するとサクラの木が満開になる仕掛けをしており、目標達成の意欲向上をねらっています。

今後も「自分の健康は自分で守る」という健康意識を高めて生活習慣病の予防と改善策について取り組んでいきます。



12. 社会との関わり

献血への協力

山形県内では輸血用血液製剤の需要が増加しています。そのため毎年、東根市の協力依頼を受け、日本赤十字社の血液事業(献血)に協力しています。構内で移動献血車による献血を年2回実施しており、毎年40名程が献血に協力しています。

これからも、日頃の体調管理に気を配り私たちの血液を1人でも多くの方に役立てていただけるよう、協力してまいります。



『果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会』への協力

「2021年果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会」は新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、ランナーやボランティアスタッフの安心・安全を確保して開催することが困難であると判断されオンライン大会として開催されました。スマートフォンで距離とタイムを自動集計される「TATTA」を使い、5月22日～6月6日にハーフマラソンでタイムを競う大会となり、そのため残念ながら毎年協力させていただいている冷たいタオルの提供を行えませんでした。



出前授業

2021年2月24日、25日 前年に引き続き県内の創学館高校 情報メディアコースの2年生(80名)を対象に出前授業を実施しました。これは産学連携事業の一環で「ハードウェア技術」単元の補助記憶装置の実習として、ハードディスク(メディア)製造でグローバルに活躍する地元企業の当社より高度な専門的知識と技術について学ぶことを目的としています。

講義では、開発部の担当者が講師となり「HDDの構造と技術、HDメディアの製造プロセス、HDDの分解実習等」についてHDDの概要や磁気記録の概念、HDメディアの高度な成膜技術や研磨技術等を分かり易く丁寧に説明しました。冒頭に行った記憶容量の単位(メガバイト→ギガバイト→テラバイト…)をどこまで知っているか?の質問では、ヨタバイトまで知っている生徒もいて私達も驚かされました。

本出前授業を通じて、HDメディアにおける高度技術、高品質、魅力を伝えるとともに、地元山形県東根市で、当社が技術と品質で世界と戦うグローバル企業であることを認識してもらえたと思います。

昨年、同校から当社初となる高校生を採用しました。今後も社会貢献活動および採用活動の一環として、本活動を通じて、尚一層地域との強固な関係を深めていきたいと思っております。



高校生のインターンシップ

2021年6月22日～24日の日程で村山産業高校 電子情報科2年生 2名のインターンシップを受け入れました。3日間という限られた時間の中ではありましたが、座学、ハードディスクドライブ(HDD)の分解・組立、製造装置のメンテナンス、製品梱包等盛り沢山の内容を体験してもらいました。初めてのクリーンルーム入室時は、クリーンスーツへの着替えに手間取っていたものの、回数を重ねる度に徐々に慣れてきた様子でした。

インターンシップ中は私達社員と同じ作業服を着てもらいました。最後の感想で「オレンジ色のシャツは明るくていいですね！」と気に入ってもらえたようで良かったです。



大学生のインターンシップ

2021年8月25日、『SDK夏季インターンシップ(大学院生4名)』を実施しました。当初3日間の日程で現地開催を予定していましたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下のため、急遽リモート(Microsoft Teams)での開催となりました。1日という限られた時間でしたが、HDメディアの記録密度を高める技術やヘッド(HDメディアとの間でデータを読み書きする為の部品)の仕組み等にも興味を持たれ、質疑応答も活発に行われました。

今回は、リモートでの開催となりましたが、参加者からは「内容が盛り沢山で現地に行ったような充実感がありました」と大変嬉しいコメントをいただきました。しかしながら、やはり現場でしか味わえない実際の業務や会社の雰囲気等もあるので、次回はずいぶん山形で実施できることを願っております。



『アルミ缶リサイクル活動実績』

昭和電工グループアルミ缶リサイクル活動に参加しています。従業員が家庭等で出た使用済みアルミ缶を持ち寄り、社内に設置した回収BOXに入れます。

2021年の活動実績は以下のとおりです。

- ・回収缶数: 42, 309缶
- ・回収重量: 658kg
- ・収益金: 50, 755円

収益金は東根市社会福祉協議会に全額寄付しました。



13. 従業員との関わり

入社式

2021年4月1日、昭和電工HD山形㈱では今年も2名の新入社員を迎えることができました。入社式では青木事業所長から祝辞と共に期待の言葉が贈られました。

初日から5日間は人事主催の共通研修を実施し、最終日には研修発表が行われました。所属長をはじめ関係者を前に研修で学んだことを発表している姿には成長が感じられました。6日目以降は職場実習が行われています。

これからも研修や実務を通して大勢の人と関わり、さまざまなことを学んでもらいたいと思います。



『2021年上期・下期定年退職式』の実施

5月14日(上期)、11月15日(下期)に定年退職式を執り行いました。上期は3名、下期は4名の方が定年を迎えました。

当日は、定年退職者の思い出に残る一日になるよう、従業員入り口に設置してあるモニターで定年退職式案内メッセージを流し、多くの仲間から、感謝や労いの言葉が自然と飛び交う雰囲気作りを行いました。

式典では、青木事業所長より祝辞と感謝状の授与を、所属部長より当社オリジナル記念品(氏名・定年退職日・会社名入りのクリスタル置き時計)の贈呈、そして苦楽をともにしてきたグループリーダーより、笑顔いっぱいの花束贈呈を行いました。最後に、定年退職者から、これまでの歩みや会社に対する思いなど挨拶がありました。式典後の昼食会や職場の仲間との記念撮影も笑顔が絶えず、和やかな雰囲気の中、幕を閉じることができました。

当社の再雇用率は90%を超えており、今回も同職場で引き続き業務に従事しています。

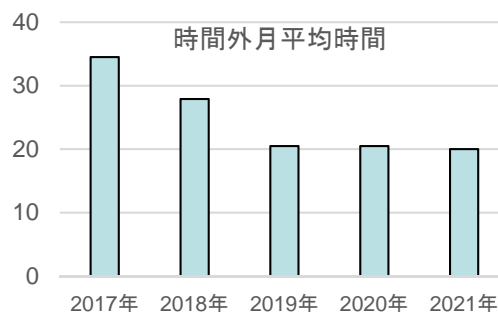


働き方改革の取り組み

当社では、仕事と家庭の調和を図り、働きやすい雇用環境整備のため、時間外労働の削減・年次有給休暇取得促進・育児休業取得促進のため、毎年数値目標を設定し取り組んでいます。

時間外労働については、5年前の時間外平均時間は月30時間を超過していましたが、現在では月20時間まで減少しています。各部門の効率化等の取り組みの成果はもちろんですが、これまでの業務効率化活動の継続が、従業員一人ひとりへ時間外労働に対する意識改革に繋がった成果であるとも考えています。

今後も業務効率化活動を継続して、時間外労働の削減に繋げて参ります。



休憩室改善活動の実施

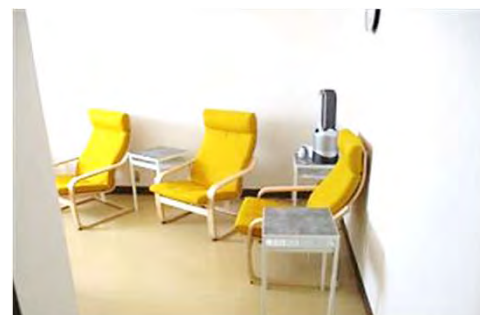
新型コロナウイルス感染症対策や従業員のニーズを取り込んで、利用しやすい快適な休憩室への改善活動に取り組みました。

三密によるクラスター発生リスクを回避する為、新規増設による分散利用を推進、エリア拡張や備品配置のレイアウトを見直し、間隔を空けて個人毎のテーブルとチェアをセットしました。

各休憩室には足踏み除菌スプレーや除菌シートを配置し利用時は、マスク着用の徹底と最小限の会話運用により感染防止を図っています。

新規備品については、スタイリッシュな明るい空間をコンセプトに選定、ゆったりとしたチェアと目に優しいフェイクグリーンの鉢を配置しました。

これらにより感染対策が強化され、日々の活力に繋がる空間となっています。



総合防災訓練

基板工場では、昭和電気(株)小山事業所内に立地する3社共同で総合防災訓練を毎年実施しています。

2021年11月に震度6弱の地震が発生したと想定し、全部署(地区隊)が地震発生後の初期対応や、サイトとしての避難への対応・非常対策本部、自衛消防組織の対応などを行いました。全体での情報の連携・行動等、大地震が発生した際に、どの様に行動するか訓練を実施しています。



『交通安全県民運動』への協力

春と秋に山形県下一斉に交通安全県民運動が展開されます。当社でも従業員向けに夕暮れ時と夜間の歩行中、自転車乗用中の交通事故防止推進や、道路横断時・交差点における交通事故防止などの交通安全啓発活動として、交差点と正門で交通安全指導を行いました。

- ・春の交通安全県民運動(2021年4月6日~4月15日)
- ・秋の交通安全県民運動(2021年9月21日~9月30日)

当社安全運転管理者の木村さんが、村山警察署・村山地区安全運転管理者協議会から、業務に精励し職場の交通事故防止に努められた業績について、功労彰を受賞しました。

(2021年7月8日)





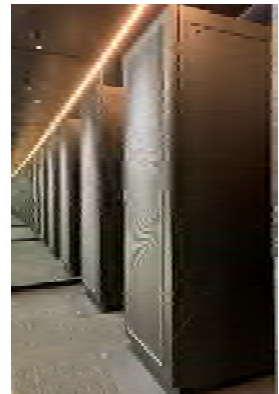
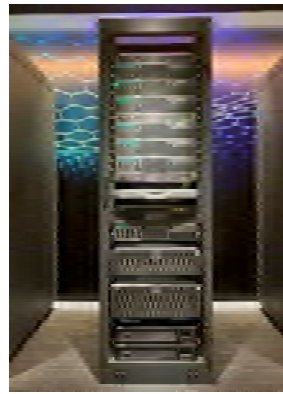
データセンターのモックアップを正面玄関に設置

ハードディスク(HD)の主な用途のひとつである【データセンター】のモックアップを正面玄関に新設しました。

高度デジタル化社会の現代において必要不可欠な存在となっているクラウドサービスやIoT(モノのインターネット)、5G通信、DX(デジタル革命)等の普及を支えるデータセンターは、多くの方が利用しています。しかし、「ハードディスクを利用して」実感が無い為、実際にハードディスクがデータセンターでどのように利用されているのかをより分かり易くイメージして頂けるように、今回モックアップを新設しました。

正面玄関の一角という限られたスペースの中で、広大なデータセンターをどのように表現するかが課題となりましたが、ブース内部の両サイドに「合わせ鏡」を設置することで、横をのぞき込むとサーバーラックが無限に並んで見えるデザインで、データセンターを再現しました。

今後も工場見学や採用活動等を通じて、沢山の方々にハードディスクの必要性を実感して頂けるよう、有効活用していきたいと考えています。



液晶モニターを全従業員入口に設置

社外のお客様へのプロモーション強化と従業員への情報発信強化を狙い、全従業員入口(計4か所)で液晶モニターを活用したデジタルサイネージの運用を開始しました。

各入口の正面に液晶モニターを設置しているので、来場時、出退勤時に映像が目飛び込んできます。

時間帯によって表示する内容を切り替えており、出勤時は従業員向けに社内行事情報を表示し、日中はお客様向けに企業紹介等を表示しております。

工場見学時のウェルカムメッセージや、入社式・定年退職式等社内イベントの案内メッセージとしても活用しており、社内の一体感をつくりあげるようにしています。

今後もより多くの方に必要な情報が提供できるように、デジタルサイネージを有効活用していきたいと考えています。



14. 新型コロナウイルス感染予防対策

マスク着用義務化、手指消毒の励行

2020年2月から事業場内でのマスク着用を義務化し、社員はもとより、協力企業従業員や来場者にもマスクを配布して着用してもらうことを徹底しています。

また、場内の各所に手指消毒剤を設置し、随時消毒できるようにしています。

これらの対策は、現在も継続していますが、感染状況により随時、見直していきます。

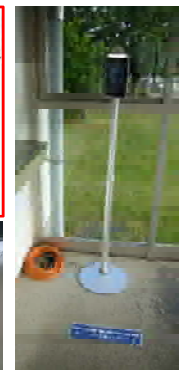


検温管理の徹底

事業場内でのマスク着用の義務化と合わせて、社員はもとより、協力企業従業員や来場者の検温管理も実施しています。

社員は、検温結果を自社製のWebシステムに登録し、所属長や管理部門で確認できるようにして、場内での蔓延防止に活用しています。

外部からの来場者も、受付の際にサーモカメラを用いて体温を計測し、発熱している方には入場をお断りする等の対策を実施しています。



3密回避策の徹底

万が一、感染者が発生した場合にクラスターを回避するため、事業場内での『3密回避策』を徹底しています。

①テレワークの導入

エンジニアやスタッフなど、在宅勤務(テレワーク)が可能な職種の従業員に対しては、情報セキュリティ対策を強化したうえで、自宅などからオンラインで業務が行える体制を整えています。

②社員食堂の分散使用と座席レイアウトの変更

昼食時の社員食堂の3密回避のため、お昼休みの時差休憩を見直しました。打合せ時間に制約がでるなどの多少の不便はありますが、混雑することなく食堂が利用できることで3密回避につながっています。

また、座席は一人ひとりの間隔を空けるため1テーブル1席とし、すべて窓に向けて横並びに配置することで、感染リスクの低減を図っています。





昭和電工HD山形株式会社

2022年 CSRサイトレポート
発行年月:2022年10月

本レポートに関するお問い合わせ先

昭和電工HD山形株式会社 総務部 CSRグループ
〒999-3701 山形県東根市東根甲5400番地2
Tel:0237-43-6111 Fax:0237-43-6039